

●ポスターセッション (P-水環境・浄化機能-P-E02～P-E06, P-水環境・その他-P-F01～P-F02)

7件 (P-E02～06, F01～F02) の発表について報告する。

本セッションでは、浄化機能に関する発表が4件、河川流域の動態に関する発表が2件、栄養塩に関する発表が1件あった。

浄化機能に関する発表のうち、コンクリートによる水質浄化に関する発表では、石炭灰を粗骨材として混ぜ込んだポーラスコンクリートが、河川水中のLAS、窒素、リンの除去に有効であることを示した。

人工湿地を用いた廃水処理に関する発表では、酸性鉱山廃水を人工湿地に導入し導入前後の金属成分を調べ、湿地土壌中に流す浸透流型の人工湿地が金属成分の除去に有効であることを示した。

湖沼の水質浄化に関する発表では、密度流拡散装置を適用することにより湖沼のDOが広範囲に増加したことを示した。

外来植物を用いた排水処理に関する発表では、熱帯産外来種であるボタンウキクサを下水処理場における高度処理への活用を検討した。その結果、T-P, T-Nにおいてボタンウキクサによる処理が有効であることが示され、微量化学物質の除去にも活用できる可能性が示唆された。

河川流域の動態に関する発表として、水田暗渠排水に関する発表では、印旛沼において河川への水田暗渠排水流入による硝酸態窒素濃度の減少は、水田暗渠排水に含まれる2価鉄により硝酸態窒素が還元されるためであることを示した。

流出モデルに関する発表では、除草剤流出率に関するモデルを作成し、様々な土壌タイプが混在する河川流域レベルでのモデルの実用性を示した。

栄養塩に関する発表として、籾殻薫炭及び竹炭からのケイ酸イオン溶出に関する発表では、籾殻薫炭が竹炭よりケイ酸イオンの溶出量が多いことを示し、処理温度が高いほどケイ酸イオンの溶出量が増加することを示した。

(山口県環境保健センター 角野 浩二)